

## 年次研修者振り返り

3年次 農業科 兼子 健太郎

3年次研修では1学年の「農業と環境」において、生徒が主体的に学習に取り組めるための工夫に重点を置いた。これまでの経験から、農業高校1学年ということもあり、農業体験の乏しい生徒にとっては、教科書に記載されている内容と実際の農業生物の成長の姿が結びつかないことが多いと実感した。教科書による講義中心の学習では、作物栽培やそれを取り巻く環境の知識・技術を習得させることは困難である。農業生物の生育の事実から学習を展開するよう努めた。これには体験による学習が重視される。しかし、部分的な体験では断片的な知識や技術の習得にとどまり、一時的な興味・関心で終わることになる。知識や技術の定着には連続性が必要であることが理解できた。生徒にとって初めて取り組む農業科目のプロジェクト学習法として、農業学習の楽しさ・おもしろさが実感できるよう展開を図った。

農業学習は、観察・実験・調査などを中心としたプロジェクト学習法によっておこなわれる。本年度は、作物栽培を播種から実施し、発芽後に栽培環境に違いをつけて、成長の仕方を調べる比較実験でおこなった。栽培環境については、土の状態から肥料や日当たりまで、様々な違いを各グループで自ら考えてもらい、その実施についても生徒自らの工夫がよく見られた。農業生産について基礎的な知識がないからこそその独創的な実験手法も話がされていて、それが農業分野への興味のきっかけになるはずである。

プロジェクト学習は、農業学習に対し興味関心を引き出し、意欲的に取り組めるよう動機づけすることに大きなねらいがある。一年を通して「農業と環境」が「楽しかった、おもしろかった」と生徒が感じられていればこの教科の成果が得られたといえる。

授業における反省として、教材選びにある。年間を通して滞りなく栽培の調査・実験・観察ができるものを選択し、またそれをプロジェクト学習として円滑に実施することが困難であった。実習と連動した講義でも、不明瞭な資料の提示をして生徒を悩ませてしまったことがあった。栽培する作物のそれぞれの特性を理解し、それにあつた実験・調査をし、活用できる長期的な計画で展開できるようにすることが課題である。また、プロジェクト学習という点では、記録と結果のまとめが十分にできていなかった。記録シートの作製や結果のまとめから考察まで一つの栽培に対して集中させ、次につなげることがプロジェクト学習では重要であると実感できた。